

恵山の火山活動解説資料（令和7年2月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1、図2-①～②）

監視カメラによる観測では、Y火口の噴気の高さは概ね火口縁上100m以下で経過しており、噴気活動は低調な状態です。

・地震及び微動の発生状況（図2-③～④、図3）

22日の火口方向が上がる小さな傾斜変動に伴い、一時的に振幅の小さな火山性地震がわずかに増加しました。その他の期間は少なく、地震活動は低調な状態です。

火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図2-⑤、図3）

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められません。

22日に火口原付近の傾斜計で火口方向が上がる小さな傾斜変動を観測しました。



図1 恵山 南西側から見た山頂部の状況（高岱^{たかだい}監視カメラによる）

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act.doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』及び『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています。

次回の火山活動解説資料（令和7年3月分）は令和7年4月8日に発表する予定です。

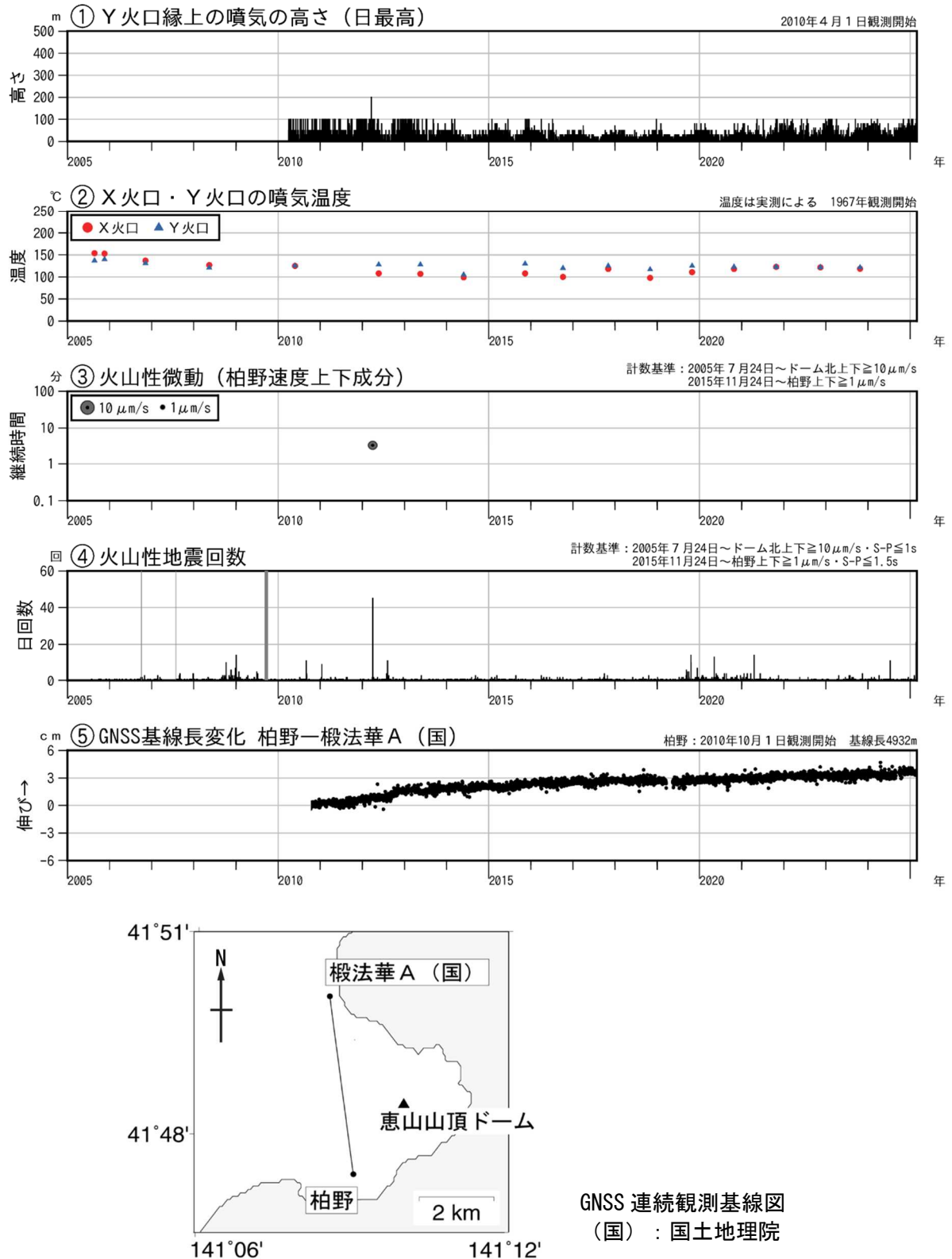


図 2 恵山 火山活動経過図（2005 年 7 月～2025 年 2 月）
④の灰色部分は機器障害による欠測期間を示します。
⑤のグラフは上図の基線に対応しています。
⑤のグラフの空白部分は欠測を示します。

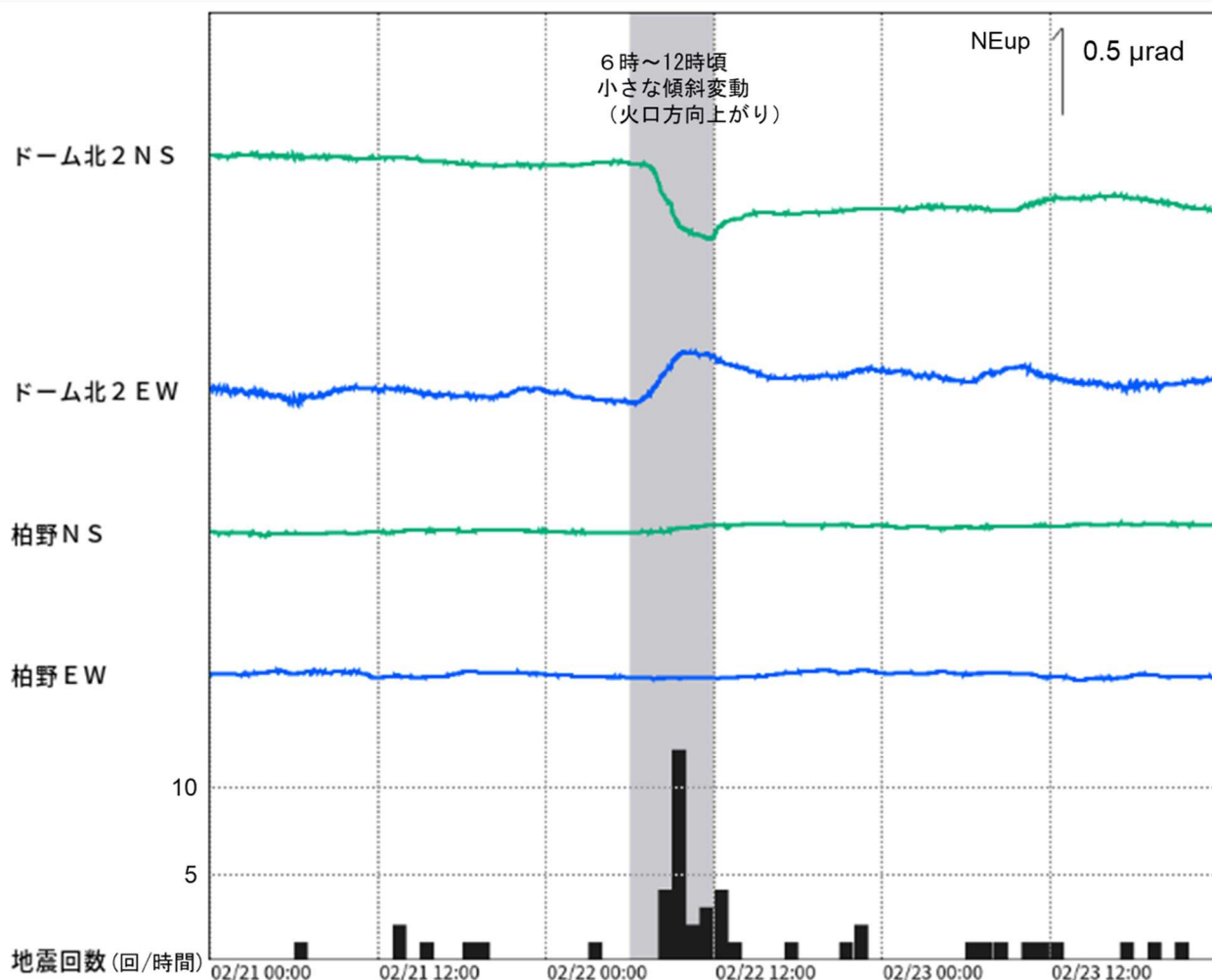


図3 恵山 22日に発生した小さな傾斜変動とそれに同期した地震活動の推移（21日～23日）

ドーム北観測点傾斜計・柏野観測点傾斜計の観測データはいずれも潮汐変化による変動を補正しています。

22日6時～12時頃（灰色部）、火口原付近のドーム北2観測点傾斜計で火口方向上がりの小さな傾斜変動が確認されました。それに同期して一時的に振幅の小さな火山性地震がわずかに増加しました。

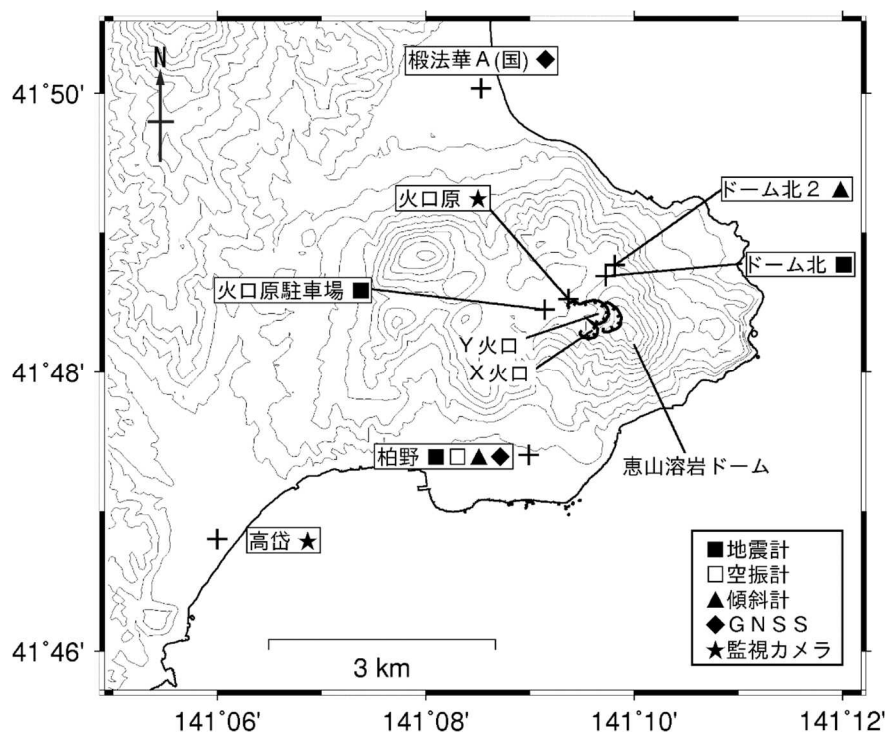


図4 恵山 観測点配置図

＋は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

（国）：国土地理院